

令和7年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
37	川崎市立犬蔵中学校	藤田みどり

学校教育目標	今年度の重点目標
生命・いのちを尊重し、生きる力を育む 1. 社会の一員としての自覚をもち、正義を重んじ、いのちの大切さを実感できる人 2. 一人ひとりの人権を尊重し、誠実で信頼できる人 3. 勤労を尊び、自ら学ぶことができる人 4. 身体を鍛え、自分を大切にすること 5. 夢と希望をもち、目標の実現に向かってたゆまぬ努力をする人	学び合い、認め合い、高め合う ～一人ひとりを大切にする犬蔵中学校～

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 確かな学力が身につく 学習活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○適切な評価につなげる学習評価の場面や方法等の工夫・改善 ○教科会・授業見学会を通して授業力向上を図る ○学習のねらいを明確にしたUD授業を展開する 	<ul style="list-style-type: none"> ○評価・評定についての研修を行い、統一した視点で適切な評価・評定ができた。 ○教科会での進捗確認や教材・評価について協議し、わかりやすい授業の展開に努めた。 ○クロムブックやICT機器を活用することで、視覚的な提示や構造化した内容の工夫した授業提案ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業のねらいを明確に伝え、「わかる授業」のもと基礎学力の定着を図る。 ○教科会を継続して充実させ、指導内容や教材の検討を重ねる。評価方法についても共通理解を図り、計画的・組織的に実践していく。 ○わかる授業の実践に努め、GIGA端末を有効に活用し個別最適な学びにつなげる。
2 意欲的な諸活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒一人ひとりの個性を生かし、学級内での役割と存在感ある生徒を育成する ○自分の気持ちを言葉や行動に移せるコミュニケーション能力の育成 ○食育の推進を通して、よりよく生きる力の育成を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校行事や生徒会活動の活性化を目指し、生徒の主体的な活動を支援するための手だてを講じた。 ○生徒が学校生活の中で、達成感や成就感がもてるように学級経営の見直しや改善を行った。 ○自校給食であることの利点を生かした、食育に関する生徒主体の発信ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学級内で役割分担による存在感の確立や、諸活動での評価活動の充実を通して、自己肯定感の向上につなげる。 ○特別活動や体験的学習を充実させ、望ましい集団作りにつながる活動計画を立てる。
3 豊かな心づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ○教科・道徳の実践を通して、豊かな心の育成を図ると共に、いじめのない命を大切に思う心を養う ○共生＊共育プログラムの推進 ○自己肯定感を高め、自分に自信をもって生きる力を養う ○学習室を含めた支援教育の校内体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○職員が常に人権尊重を意識した言葉かけや関わりで、自他の良さに気づき、大切に思える心の教育に力を入れた。 ○各学年で系統的・体験的な学習を通してキャリア在り方生き方教育の推進に努めた。 ○学年を問わず常に情報共有を行い、統一した対応と生徒のペースで学ぶことができる学習室の運営を全職員で共有できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒理解を深めるため教育相談の充実を図り、共通認識のもとチームとして支援していく。 ○主任会での情報交換に力を入れ、生徒一人ひとりにあった対応・支援を充実させる。 ○学習室での支援方法とGIGA端末を活用した学習環境を充実させ、組織的に運営していく。
4 安全で安心できる学校づくりと 地域・保護者との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○学校だより・学年だより等による継続的な情報発信 ○学校行事・学校公開日等、保護者の来校機会の充実と案内方法の工夫 ○防災・震災訓練を通して、自分を守る術が身につく安全教育の推進 ○体験学習・授業交流を通して、小中連携教育の充実と推進を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校評価アンケートの質問事項を、今年度の活動実績に即した内容へ見直し、学校・保護者それぞれの視点の違いを意識した活動計画ができた。 ○今年度はわいわいフェスティバルと避難所開設訓練を同一日に実施し、地域の方とともに防災を意識した活動となった。 ○感染症による学級閉鎖が多発し、小中を行き来しての授業見学が中止となったが、それぞれの立場での情報交換は常に行なった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校教育の理解と協力を得るために、紙面配布とミマモルメ配信を使い分け、積極的な情報提供に努める。 ○今年度、試行錯誤しながら実施した防災教育をさらに充実させるために、避難所運営会議との連携を密にする。 ○切れ目のない支援を継続させるため、小中連携事業と情報交換を充実させる。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<ul style="list-style-type: none"> ○教科担任制の学びの校種であるので、教科担任の未配置がないように切に願う。 ○通常学級の中での学力差が広がっているように感じている。学習に遅れがある生徒に対しての対策をお願いしたい。 ○給食の有難さを実感している。帰宅してから給食の話題も多く、栄養面だけでなく食育は大事だと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○一人ひとりを大切にする犬蔵中学校という目標のもと、様々な事情を抱え、困難さを抱える生徒に対応した支援教育の充実を図る。 ○ご家庭から大切なお子様をお預かりしているという意識を忘れず、生涯に通じた学びと学び合い社会に向けた教育活動を実践する。 ○年々、若い教職員が増えていく実情を踏まえ、学習指導の充実はもちろん、教育相談・生徒指導等の研修も手厚く行う必要があると考える。全職員で実施する校内研修と対象を絞った校内OJTも取り入れ、教職員の資質向上を目指したい。